

# 加茂小5年生ポートフォリオの実践

## ～1組と2組～

若 槻 徹<sup>1)</sup>

総合的な学習の時間でポートフォリオを活用して取り組んだ小学5年の実践研究。同じ学習内容を1組、2組と視点や手法を変えて複数のアプローチでポートフォリオ評価やプロジェクト学習のよりよい方法を追求した。支援の方法の違うパーソナルポートフォリオ作りの実践とねらいの異なる（個人の課題を見つけるため、共同でのプロジェクト学習のまとめ）凝縮ポートフォリオ作りを行った課題ポートフォリオの実践を行った。

<キーワード> ポートフォリオ評価、プロジェクト学習、凝縮ポートフォリオ、総合的な学習の時間

### 1 はじめに

#### （1）初めて取り組んだポートフォリオ

加茂小学校は、平成11年度から文部科学省から「総合的な学習の時間」の研究開発校の指定を受け、研究実践を進めてきている。5年生60名（1組30名、2組30名）は、3年時から「総合」の学習を経験してきているが、ポートフォリオを活用した学習を本格的に始めたのは、本年度の5年生になってからである。

#### （2）研究実践のねらい

本研究実践のねらいは、次の通りである。

同じ学習内容で異なる視点や手法での実践の比較分析を通して、ポートフォリオ評価やプロジェクト学習のよりよい方法を明らかにしていく。

#### （3）実践内容

次の2つの単元の実践について紹介する。

「自分をPRしよう」パーソナルポートフォリオ作り

・教師の支援の方法の違いにより質の違う凝縮ポートフォリオができた。

「やさしい町加茂」課題ポートフォリオ

・1組は個人の課題を見つけるため、2組では共同でのプロジェクト学習のまとめとして凝縮ポートフォリオを作成していった。

### 2 「自分をPRしよう」（パーソナルポートフォリオ作り）

#### （1）ねらい

じぶんをPRする内容や方法を工夫しながら表現できる。

自分のよさを振り返り、材料を集め、選択して効果的な表現方法を考えることができる。

自分に自信を持ち、相手に自分を知ってほしいという思いを伝えることができる。

#### （2）活動の流れ

自分のよさを見つける。（1時間）

ア 自分の得意なことや好きなことを書く。

自分で見つけて書くだけでなく、友達にも書いてもらう活動を取り入れることで、意欲的に活動できたり、学級の人間関係作りにも役立った。家庭でも親子での対話もできた。



\*1 加茂町立加茂小学校 (waka@bs.kkm.ne.jp)

自分を P R する材料を集め、再構成ポートフォリオを作る。( 7 時間 )

- P R する内容を絞っていく場面での支援が 1 組と 2 組ではやや異なっていた。

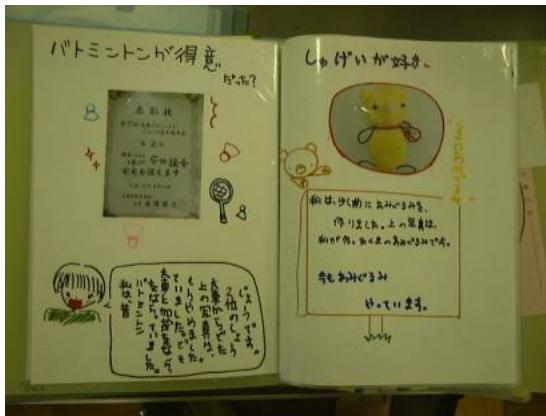
1 組 紹介したい内容を 5 つに絞る。

2 組 自分の紹介したい内容は自由。

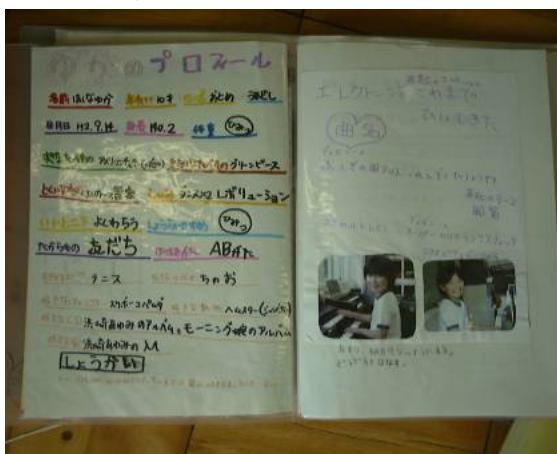
どちらも A 4 版 2 枚程度にまとめていく活動であったが、紹介したい内容を 5 つに絞り、紹介方法を事前に計画して取り組んだ 1 組の方が構成をよく考えてテーマの絞られたオリジナルな作品が多く見られた。2 組の方は、細かなプロフィールまで詳しく紹介したものになった。

見せることを意識してまとめていく上では、1 組のような細かな計画段階での支援が大切であったと思われる。

< 1 組のポートフォリオ >



< 2 組のポートフォリオ >



・進んで資料をデジカメで写したり、紙面構成をいろいろ工夫するなど子どもたちは、意欲的に活動することができた。お互いに見せ合ったり、発表の練習をすることもできた。



ポートフォリオを元に先生方に自己 P R をする。

・(自分のことを知ってほしい!) という願いをもとに、自分の選んだ先生にそれぞれ P R をしていった。先生とのアポをとったり、事前練習をしたりして、緊張感を持ちながら活動を進めていった。



・先生方へは、子どもたちの発表する力をつけるためというねらいを事前に連絡しておき、協力してもらった。

活動を振り返る。

・評価カードに記入してまとめていった。先生方にもその場で、評価の言葉をカードに書いてもらった。

( 3 ) まとめ

このパーソナルポートフォリオを作る学習を最初に行い、子どもたちが資料を意欲的に収集したり、お互いの情報交換が活発にできたことは有意義であった。自分のよさを知ることで自信につながったり、ポートフォリオのイメージをつかむこともできたと思う。

### 3 「やさしい町加茂」(課題ポートフォリオ)

< 2組 > ~プロジェクト学習

#### (1) ねらい

自分なりの思いや願いをもとに課題を作り相手にそれがよく伝わるように表現することができる。

「人にやさしい町」にするために自分たちにできる活動(課題)を見つけることができる。

活動の見通しを持ち、計画を立て、活動を振り返ることで、計画を修正しながら課題を追求していくことができる。

活動の中で関わる相手の思いや願いをしっかり聞き、大切にすることができる。

友達と協力して課題に向かって取り組むことができる。

#### (2) 活動の流れ

テーマを知る。(1時間)

・共通テーマとして私たちの加茂町を「人にやさしい町」にしよう!を設定した。

テーマを見つけ、課題を作るための体験

(福祉施設の見学、体験、交流 6時間)

1 福祉センター ガイダンス、疑似体験

2 老人ホーム 交流体験

3 特別老人ホーム 交流体験、介護体験

・3カ所の施設とは事前に相談をし、活動内容について相互の連絡調整も行っておいた。

・各活動の後には、振り返りをして自分のテーマを見つけていけるようにした。



自分のゴールやテーマを決める。(2時間)

・ウェビングを行ったり、町の福祉の担当の方のお話を聞いたりして、自分のテーマを決めていった。

活動計画を立てる。(2時間)

・テーマ毎にチームを作成し(4テーマで7チーム)計画を立てていった。

<ポートフォリオボード>



情報を集め、調査・準備をする。(7時間)

・活動の計画は、それぞれ模造紙に表しておき、今の活動がどこの位置にあたるのかを明らかにしておいた。また、チーム毎の活動の情報交換の時間をとったり、付箋を貼って交流ができるように工夫した。

・参観日に活動計画を発表し、アドバイスをしてもらい、実践への意欲を高めることができた。

実践の活動(4時間)



・7チーム毎にお年寄りさんとの交流を中心として活動をしていった。電話連絡や事前の調査や準備、活動後の交流とどのチームも意欲的に取り組むことができた。学期末の短い期間であったが、目的意識をきちんと持って活動することができた。

活動の振り返り(3時間)

・今回は、時間が少なくなり、発表のための

まとめと振り返りを一緒にして、チームの活動計画（模造紙）にまとめていく共同の凝縮ポートフォリオ作りを行った。実践の場面の写真を載せたり、感想や考えたことを配置を工夫しながらまとめていった。

- ・そして、学級で発表会を行い、付箋を貼り付けていくなどの情報交換を行った。
- ・さらに、個人で単元の「振り返りカード」を使って、学習のまとめをした。

#### 4 「やさしい町加茂」（課題ポートフォリオ）

＜1組＞～課題作りでの凝縮ポートフォリオ活用

2組が実践を重視したプロジェクト学習を行ったのに対し、1組は、この期間を課題作りを目的として、「体験 振り返り」の学習を繰り返して、最後に活動したことを振り返り、個人で凝縮ポートフォリオを作成した。

##### （1）「お知らせボード」



・個々の活動の様子が分かるようにカードを順に貼っていき、意見交換の付箋紙も貼ったりして、情報交換もできるように工夫した。

##### （2）凝縮ポートフォリオ作り



・個人でA4版2枚に体験した活動をまとめていった。パーソナルポートフォリオ作りの経験があったので、手順もわかり、構成を工夫したポートフォリオができあがっていった。

#### 5 まとめ・今後の課題

##### （1）成果は・・・現在進行中！

・本単元「やさしい町加茂」は現在パート2の活動に入って実践中である。実践の経験を重視した2組は、「環境」という新しいテーマで新たなプロジェクトが進行中である。課題作りに時間をかけ、個への支援「対話」を重視した1組は、いよいよ課題追求のプロジェクトを開始している。

・教師の「意志」を生かして、異なるアプローチの仕方で、切磋琢磨しながら協力して子どもたちに「追求する力」を育てようと実践中である。

（2）掲示して情報交換できるポートフォリオは？個人でファイリングする以外のポートフォリオの活用も考えて取り組んだ。

##### 「ポートフォリオボード」（2組）

・常時掲示することで活動の見通しを持ったり、情報交換をする上で有効であった。チームの共同の凝縮ポートフォリオをとして、まとめ・発表の手段としても活用できた。

##### 「お知らせボード」（1組）

・個々の活動の足跡の全体像が掲示によってよくわかり、個々の進行状況を把握するのに役立ったり、情報交換にも活用できた。

##### （3）課題を見つけるための凝縮ポートフォリオ

・自分の課題を見つけるために、体験を振り返る凝縮ポートフォリオ作りを行った。（1組）

##### （4）今後の課題は「ポートフォリオ評価」

・日々の活動は振り返りカードに記録しているが、自己評価したり、教師が評価し、支援に役立てていく面を今後は充実していく。

・子どもたちにポートフォリオを作らせることが目的ではない。ポートフォリオをもとに自己評価できる子どもたちを育てていきたい。